

第28回

春よこい

(有)シェパード 獣医師 松本大策

みなさんこんにちは。(有)シェパードの獣医師 松本です。ようやく暖かい日差しもさすようになってきましたね。寒い冬に耐えてきた牛さんたちも、食欲もでてぐっと大きくなる時期です。この時期にもいくつか注意しなければならないことがあります。今月はそここのところを一緒に考えてみましょう。

尿石症に注意

まず最初に注意しなければならないのが、春先も尿石症が増加する時期である、ということです。冬場に尿石症が増えるのは、寒さのために飲水量が減少することが一つの原因です。このほかにも冬場は寒さに対抗するために体温を作るためのエネルギーが余分に必要になるため、タンパクとカロリーのバランスが崩れて、吸収したタンパク質を身につける分のカロリーが不足することによって、身に付かなかったタンパク質が老廃物のアンモニアとして尿へ排泄されるために尿phが上昇して尿石症になりやすい

春先の尿石に注意

- 冬場に飲水量が少なくオシッコが濃縮しているところにたくさん飼料を食べ始めるので尿石の材料が体内に入る
→水をヒーターで温める、飼料の塩分を増やして飲水量を増やすなどの措置をとる
- 飲み水のphが変化しオシッコのphを上げてしまう
→カウストンの添加などで尿phを下げる

状態になるのです。(このあたりのことは、尿石症のお話 第3回(連載26回)をもう一度見ておいてくださいね)

じゃあ、春先はいいんじゃないの？って思われるかもしれませんが、冬場にオシッコが濃縮して尿石症ができやすくなっているところへ、春先の暖かさで食欲が増加して飼料由来の無機リンやマグネシウムが大量に取り込まれるのですから、尿石症が増え

てくるのです。また、地域によっては、春先は井戸水のphが高くなる場所があります。どうしてかは調べていないのですが、おそらく雪解け水が石灰岩の中を通過してきた結果ではないかと考えています。水のphが高くなると、オシッコのphも高くなりやすく、結果的に尿石症になりやすいのでしたね。それからちょっとややこしいお話になりますが、春先は脳下垂体というところから分泌される抗利尿ホルモンというホルモンの働きが強くなる可能性があります。このホルモンはオシッコの量を減らす働きがあるので、尿の成分が濃くなるのです。

こういう訳で、毎年の病気の発生状況を見直して、春先に尿石症がしやすい農場の方は、カウストン(粉末のもの)を50g×3日～1週間程度、飼料に添加しておきましょう。このとき、カウストンのみ添加すると、塩化アンモニウムという成分のために食欲が低下する場合がありますから、トルラミン100gを一緒に添加してあげるとよいです。両方合



わせてもたいしたお金じゃありません。1頭尿石症がでたらどれほどの経済被害が発生するかを考えれば安いものです。あと、どうしても冬場から春先に尿石症が増える農場の場合は、やはり連載27回を見直して、飼料のNFC(デンプン)を増やすなどの対策を取りましょう。

春先は寄生虫の大発生！

それから、春先になると牛さんの体内にいる寄生虫が蠢き出します。スプリングライズといって一気にたくさんの卵を産み始めるのです。これらの卵は糞の中に混ざって外に出ますが、1週間程度で他の牛さんへの感染力を持つようになります。

寄生虫を完全にゼロにするのは難しいかもしれませんが、数を減らすだけでその被害はなくなります。寄生虫の被害はあらためて言うまでもありませんが、下痢(腸炎)や発育不良、時には第4胃変位、それから肺炎の原因にもなります。また乳糖糞線虫という寄生虫は、大量に寄生すると心臓を止める毒素を出して牛さんを殺してしまうこともあります。

こういう恐ろしい被害を食い止めるためにも、春先に一度駆虫を実施しておきましょう。繁殖農場の場合は、全頭一斉にすれば農場全体の寄生虫数が減らせますから効果的です。肥育牛の場合は、駆虫薬の出荷寄生が長いこともあって、後期の牛に実施するのは難しいです。ですから、必ず導入時に駆虫を実施し、駆虫後1週間以内に敷き料の交換をしておくようにしましょう。駆虫薬は2週間程度は持続して効いていますから、駆虫したあとに敷き料を交換すると、敷き料中の虫卵を除去できて再感染の心配がなくなり、農場全体から寄生虫をかなり減らすことができるのです。

ガス

春先は、急に食欲がでるのでガス(急性鼓脹症)が発生しやすくなります。ガスの場合、前歴のある牛さんよりも、始めて急にガスが張ってきた牛さんの方が危険です。何度もガスのでる牛さんは、慢性鼓脹症の場合が多く、死に至るのは急性鼓脹症よりも少ないのです。これまでにガスがでたことのない牛さんで起こる病気ですから予測は困難です。粗飼料の質の悪い農場やどうもガスが出やすいという農場ではアースジェネターなどの生菌剤を飼料添加しておいた方が安心でしょう。現在、中国産イナワラは輸入禁止ですが、もし輸入解禁になった場合、春先の輸入品は内側がカビていることがあるので注意してください。これは冬場の蒸気消毒で湯気が凍ったまま(大連はマイナス20度くらいになりますからね)積み出され、日本への輸送中に溶けて湿った状態になるため内部からカビが発生するのです。このようなカビた粗飼料は絶対に使わないようにしましょう。ガスだけじゃなく下痢や肝炎の原因にもなります。

